

「大きな喜びが天にある」

ルカによる福音書 第15章 1節～10節

説教 岡村 恒 牧師

「一人の罪人が悔い改めれば、神の天使たちの間に喜びがある。」(10節) 神が喜ばれるという話です。聖書に書いてある福音は、私たちにとっての良い知らせであると同時に、神ご自身が喜ぶという話でもあります。

当時のユダヤの社会では、罪人や徴税人と食事をする事はタブーでした。特にファリサイ派の人々や律法学者たちは宗教的に熱心な人々です。彼らは不平を言いました。「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」(2節) 彼らは、少しもイエス・キリストを理解できずにいました。そこで主イエスは、彼らの不平や無理解に対して3つのたとえ話をされました。

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。」(4節) 多くの人は、そんなことはしないと云うかもしれませんが、99と1を比べて1匹ぐらいしょうがないと判断する人がいるかもしれません。この羊の持ち主は羊のことをよく知っていたと思います。彼はそれを迷い出た羊と呼びません。見失った羊、かけがえのない1匹。見つけ出すまで探します。「そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』(5-6節) と言ひ、喜びをあふれさせます。羊の発見と帰還に羊自身は寄与していません。ただ羊の主人の熱情でありました。

主イエスは、これは天の父の姿だと言われます。「悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」(7節) 天とは神の愛が溢れ、神のおられる場所を指しています。

主イエスは2つ目のたとえ話をされました。「ドラクメ銀貨を十枚持っている女がいて、その一枚を無くしたとすれば、ともし火をつけ、家を掃き、見つけるまで念を入れて捜さないだろうか。」(8節) 1ドラクメは1日の労働賃金分ぐらいと言われます。旧約聖書の時代、今日のキリスト教会でも1/10は献金の目安として大事にされてきました。9割は自分の物で、1割だけ捧げたら良いという話ではないのです。与えられた全ては主の物、そう言う信仰を表わ

すために1/10を神にお捧げをしたら良いと聖書は教えます。その1/10をこの女性は失いました。見失った銀貨を念入りに諦めないで探し続けます。「見つけたら、友達や近所の女たちを呼び集めて、『無くした銀貨を見つけましたから、一緒に喜んでください』

(9節) と言ひ、喜びをあふれさせます。銀貨の側に発見される功績や理由は何1つ無いのです。ただ持ち主が必死で探したので発見されました。そして主はこのたとえが、神の姿を表すと教えます。

私たちは立ち止まります。神が探して喜んでくださる理由は何か。神は、私たちが失われてしまったことを良しとせず、必死で探してくださる。その発見の喜びは天全体を揺るがす喜びです。私たちはどれほど神に愛されているか、すぐに忘れてしまいません。私たちは神の一人子イエス・キリストをその犠牲として手放してしまうほどに尊い存在だと聖書は語ります。

神は私たちを愛し、そのために犠牲を払いながら探し出して見つけてくださったのです。1人の人が罪を告白し、信仰を告白して洗礼を受けるとき、天上に震えるような喜びがあふれると聖書は語ります。天にあふれる喜びを自分自身の喜びとして味わいながら、このお方を褒め称えて、愛して歩みたいと願います。

やがて世の終わり、神は主イエスをもう1度お送りくださいます。主イエスのものとして、時を超え、場所を超え、神のものとされた者が一同に集い、喜びが溢れ出る祝宴が開かれます。世々のキリスト者は、自分自身を羊とし、1枚の銀貨として、探し出してください方を褒め称えながら、その終わりの日の喜びの爆発の時を待ちわびてきました。

私たちも主の日に集い、主が来て下さる日が来るようにと共に祈り、歩んでいます。私たちの日常生活の只中、祈りの度に、讚美の度に、心を留めて神を思う度に、天上の喜びが私たちに流れ込んでくる。あなたが発見され、神のものとなったことを神ご自身が喜んでおられる。そのメッセージが繰り返し私たちの心の中にわきあがります。今、この私のために、神が喜んでいて下さる。この喜びを共に喜び、感謝して生きよう、そう私たちは促されています。

(記 説教要約奉仕者)